

令和4年岩手県モデル事業所伴走支援

施設概要 住田町社会福祉協議会デイサービスセンターとだて

施種種別	通所介護
定員	30名
開設日	2010年
所在地	岩手県住田町

手順01 改善活動の準備をしよう

- ・業務アドバイザーと対話により課題間の整理、仮設検討
- ・プロジェクトチーム組成（事業所内での人選）
- ・プロジェクトリーダーから、全体キックオフ・取組宣言・全スタッフへ周知。

手順02 現場の課題を見える化しよう

- ・ケアパレットを使用できるのは職員10名のうち3～4名程度。
- ・転記する役割を担っているのはリハ職や看護師で転記には2時間程度要する。
- ・前回利用者が食べたか、食べていなかったかという話がでることもあった。

食事摂取量をケアパレットでその都度入力し利用者のアセスメントに活かす。

手順03

実行計画を立てよう

活用したテクノロジー

NDソフトウェア
ケアパレット

食事摂取量をケアパレットでその都度入力し利用者のアセスメントに活かす。

1

記録の洗い出し

- 記録の5Sシート作成。
- 各業務の棚卸を行いその上でケアパレットに置き換え整理した。

2

手順書の作成

- 食事における摂取量の項目について、手順書を作成する。

3

その他

- 現状把握アンケート、各種評価の実施。
- 現場との対話、プロジェクトチーム内での対話。内省。

手順04

改善活動に取り組もう

活用したテクノロジー
NDソフトウェア
ケアパレット

～工夫した点～

食事摂取量をケアパレットでその都度入力し利用者のアセスメントに活かす。

1

記録の洗い出し

- ケアパレットをまず、導入して活用できそうな業務、項目について考えた。

2

手順書の作成

- 摂取量の項目について、開き方からの手順書を作成する。
- 手順書を事務所のカウンターに設置。

3

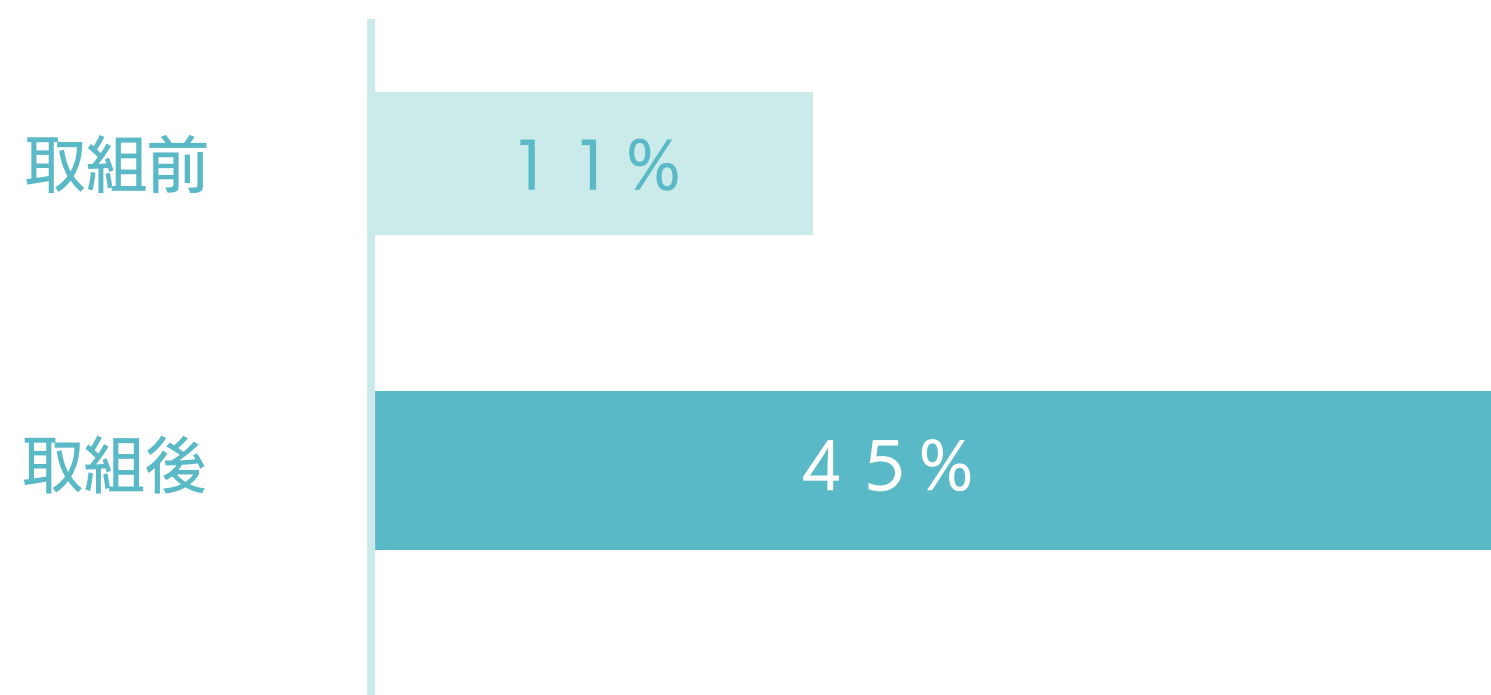
その他

- 個別にリーダーが入力方法を説明し、スタッフが一緒に入力。

手順05

改善活動を振り返ろう

今後ケアパレットを積極的に使いたい人



34%
アップ

この取り組みが始まってからケアパレットを触ったが、これからも使用していきたい。

バイタルなど確認のためケアパレットを触ることが以前より増えたと思う。

- ・ケアパレットへの抵抗感が減った89%
- ・ケアパレットに対して以前より自信を持った62%

手順06

実行計画を練り直そう

得た学び、感じたこと

- みんなで使用できるようにすれば、ケアパレットが苦手な職員も自分からわかろうとするのだということ、その分だけみんなで業務を分担できると感じた。
- 説明すれば、みんな使用できるため、説明する時間を確保することが重要だと感じた。



- ケアパレットでの入力を積極的に実施できるように、今回の食事量の入力だけでなく、○・×で入力できる項目を探し、ケアパレットに触れる機会を増やす。
- 入りに少し慣れたら文章入力の実施も行い、キーボードではなく音声入力を活用し、行いやすくする。
- 適宜みんなの様子を確認し、不安なこと、苦手なことを表出できる環境づくりを実施。